

令和6年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団体名	特定非営利活動法人トリトン・アーツ・ネットワーク	
施設名	第一生命ホール	
内定額	4,868	(千円)

1. 基礎データ

(1) 開館日数・事業本数・貸館日数

項 目		令和5年度	令和6年度
開館日数		312	307
年間事業本数（※1）	主催事業	23	22
	公演事業	18	17
	（内、本助成対象事業本数）	6	5
	人材養成事業	3	3
	（内、本助成対象事業本数）	3	3
	普及啓発事業	2	2
	（内、本助成対象事業本数）	2	2
	その他 内容： 記入してください		
貸館日数	ホールごとの貸館日数	170	194
	ホール名： 第一生命ホール 座席数： 767	170	194
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

(2) 施設利用者数・利用率

項 目		令和5年度	令和6年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	16,400	19,574
	公演事業	12,400	14,023
	人材養成事業	500	928
	普及啓発事業	3,500	4,623
	その他 内容： 記入してください		
	貸館事業入場者・参加者数	40,000	41,000
	その他 内容： 記入してください		
	計	56,400	60,574
施設の利用率(%)		54.5%	60.0%

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者数は除きます。

(3) 公演事業データ

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	入場者・参加者率	事業本数内訳						
						演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※4）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	18	29	13,700	86.0%		18					
	共催・提携公演（※2）	7	7	2,500	56.0%		7					
	貸館公演（※3）	130	134	35,000			110					20
	計	155	170	51,200								
令和6年度	主催公演（※1）	17	25	12,000	75.0%		17					
	共催・提携公演（※2）	6	6	2,500	93.0%		6					
	貸館公演（※3）	180	194	38,000			150					30
	計	203	225	52,500								

※1 名義主催は除きます。

※2 名義共催を含みます。

※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。

※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

2. 公演事業の実績記録と自己評価

(1) 各公演事業における 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)

・ 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

事業 番号	事業名	入場者数		入場者率	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	備考
公-01	0-3歳児のためのコンサート	目標 値	720	100.0%	観客・聴衆満足度	アンケート上位2段階95%以上	アンケート上位2段階99.3%	観客アンケート結果では目標を高く設定していたが、それを上回る成果だった。		
		実績 値	737	104.7%						
公-02	クリスマス・オーケストラ・コンサート	目標 値	1,530	83.6%	観客・聴衆満足度	アンケート上位2段階95%以上	アンケート上位2段階96.4%	観客アンケート結果では目標を高く設定していたが、それを上回る成果だった。0-3歳児コンサートから4歳以上入場可の当公演へ狙いどおり移行している観客も想定を上回った。		
		実績 値	1,426	77.9%	0-3歳児コンサートからのリピーター件数	顧客分析で20件以上	顧客分析で29件			
公-03	音楽と絵本コンサート「おまえうまそうだな」	目標 値	530	79.9%	観客・聴衆満足度	アンケート上位2段階95%以上	アンケート上位2段階96.8%	観客アンケート結果では目標を高く設定していたが、それを上回る成果だった。0-3歳児コンサートから4歳以上入場可の当公演へ狙いどおり移行している観客も想定を上回った。		
		実績 値	526	79.3%	0-3歳児コンサートからのリピーター数	顧客分析で7件以上	顧客分析で14件			
公-04	トリトン晴れた海のオーケストラ	目標 値	1,200	79.1%	観客・聴衆満足度	アンケート上位2段階95%以上	アンケート上位2段階100%	観客アンケート結果では目標を高く設定していたが、それを上回り100%が満足という成果だった。演奏会評以外にも「音楽の友」誌2025年2月号の「コンサート・ベストテン」でも平野昭氏にランクインされた。		
		実績 値	1,359	89.5%	専門家による批評掲載数と内容	掲載1本以上でおおむね高評価	掲載3本(音楽の友12月号・4月号、モーストリークラシック4月号)高評価			
公-05	室内楽の魅力～リート・デュオ	目標 値						公演中止		
		実績 値								
公-06	室内楽ホールdeオペラ～佐藤美枝子の「ルチア」	目標 値	530	80.5%	観客・聴衆満足度	アンケート上位2段階95%以上	アンケート上位2段階100%	観客アンケート結果では目標を高く設定していたが、それを上回り100%が満足という成果だった。「音楽の友」誌2024年10月号でも「完成度の高さに圧倒された」と加藤浩子氏に絶賛された。		
		実績 値	589	89.5%						

3. 自己評価

評価項目①:創造性・企画性

評価の観点
・(企画力)地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・(制作力)優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・(発信力・影響力)圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・(レジデントカンパニー・アーティスト)当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- ・ 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。

	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
公演事業	・顧客満足度 ・外部評価委員会の評価	・全公演事業の9割で、観客満足度の目標達成 ・評価事業報告書で概ね高評価を得る	・全公演事業でアンケート上位2段階9割以上、目標達成。 ・外部評価委員会による「評価事業報告書2024」では以下のように高評価を得た。 (・第一生命ホール規模や特性、地域の属性を踏まえたプログラム構成が的確に設定されており、シリーズごとの目的や対象に即した演奏会が企画されている。 ・小ホールながらも多様なラインナップを安定的に実施しており、ホールのキャパシティを超えたインパクトを発信している。 ・室内楽やホールオペラなどの企画で新規顧客の開拓を実現している。)	・公演事業の全事業において目標としていた観客満足度の目標値を達成した(アンケート集計結果より)。 ・第一生命ホール主催公演全体として、公演毎、シリーズ毎のねらいに沿った企画で、演奏家、対象のお客さま双方の満足度の高い、第一生命ホールならではの公演を制作できた。顧客満足度はアンケート集計どおりだが、演奏家からも公演毎に企画性や熱心な顧客層、スタッフの熱意などについての言葉をいただいており、1つ1つがまた新しいオリジナル企画の創出につながっている。		
人材養成事業	・ウェールズ・アカデミーへの応募数(定員充足度) ・アウトリーチセミナー、ウェールズ・アカデミーの研修後の反応	・募集定員を上回る応募数 ・振り返り、インタビューで概ね高評価を得る	・募集定員最大8名(団体、個人を合わせて)のところ、個人14名、団体6組24名、計38名の応募があり目標達成。 ・ウェールズ・アカデミー生へのインタビューでは「現役のプロの弦楽四重奏団に教えてもらえるのは貴重。アドヴァイスは丁寧で細かく、有意義なことばかりで大変勉強になる」と口々に答えており高評価。 ・アウトリーチセミナーの振り返りでは「子ども対象のアウトリーチでも大人対象のロビーコンサートやコンサートでも、音楽を届けるということは同じだと学ぶことができた貴重な機会だった」と高評価だった。	・ウェールズ・アカデミーの3年間の受講生からは、国内オーケストラへの合格者が続出(N響3名、N響アカデミー1名、読響2名、都響内定1名、大阪センチュリー1名、アンサンブル金沢1名、東響1名)するなど、高い成果が上がっている。また過去の受講生が、トリトン晴れた海のオーケストラなど第一生命ホール主催公演に出演する機会も増えており、若手演奏家にとって貴重なアカデミーとなっている。 ・アウトリーチセミナー修了生も、トリトン・アーツ・ネットワークのアウトリーチで活躍、すぐれたアウトリーチをホール周辺に届け、成果を上げている。		
普及啓発事業	・オープンハウスの顧客分析で新規来場者数	・オープンハウス新規申込割合50%以上	・新規来場者割合42.3%	・高めに設定した目標には届かなかったものの、ホール周辺で人口が増えているとはいえ、チケットシステムへの会員登録と申込みという参加ハードルがある中で、前年に引き続き多くの新規来場者を獲得できた点は大きな成果といえる。会員登録制のシステムを踏まえると、今回の結果は確かな手ごたえであり、今後の有料公演への顧客獲得の機会となったと捉えている。		

(2) 「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・レジデント・オーケストラである「トリトン晴れた海のオーケストラ(晴れオケ)」は、2015年創設から10年たち、指揮なしの「第九」が取り上げられたNHKドキュメンタリーを見た長野県松本文化会館から依頼があり松本公演を開催するなど、活動が全国的に注目を集めている。2024年度はまた、メセナ協議会からの推薦で、The Okura Tokyo「The Okura Tokyo Cultural Fund」(公益社団法人企業メセナ協議会「社会創造アーツファン」)助成をいただき、新しくできた晴海フラッグにある、中央区地域交流センターはるみらいでの、晴れオケメンバーのロビーコンサートが実現した。これが大変好評で、2025年度は「はるみらい」主催で晴れオケのロビーコンサートを行うことになり、その様子が中央区ケーブルテレビ『こんにちは 中央区です』、ラジオ中央エフエム「Weekly声の架け橋」(中央区広報ラジオ)で放送された。また2025年度の中央区の市民講座「中央区民カレッジ」には、晴れオケコンサートマスター矢部達哉が登壇、「晴海(晴れた海)の名をつけた中央区の皆さまのためのオーケストラ」と呼びかけた。地域での支持も高まっており、新しい街晴海のシビックプライドの醸成に貢献している。

・2024年1月にオープンした晴海フラッグ含め、人口(特に年少人口)が急増している地域にあるホールとして、15年以上にわたって0-3歳児のためのコンサート、4歳児から入れるファミリー向けコンサートなど、年齢別のコンサートをシリーズできめ細かく企画している。4歳児以上向けの「音楽と絵本」コンサートは、そのコンテンツが支持され、地方のホールでも度々企画が買われて実施されている。

・第一生命ホール主催公演は、ホールならではのものを自ら企画制作したものばかりで、演奏家と相談して1つ1つ創造している。2024年度の「室内楽ホールdeオペラ」も第一生命ホールでの1回かぎりの公演のためのプロダクションで、高い評価を得た。助成対象外だが、それぞれ5年がかりのオリジナルシリーズ「小山実稚恵の室内楽・新章」、「宮田大Dai-versity」(中央区文化推進事業助成「文化創造・発信事業」)も完売、内容としても、「小山実稚恵の室内楽・新章」ではシューベルトのピアノ三重奏曲全2曲、「宮田大Dai-versity」ではチェロと三味線、琉球舞踊、バレエが共演するなど一期一会の企画を実現させている。

・助成外ではあるが、2001年当団体創設当初から「カルテット・ウィークエンド(SQW)」などのシリーズで、日本の室内楽シーンを牽引してきた。「カルテット・ウィークエンド(SQW)」を継続する中で、カルテット・エクスセルシオが若手弦楽四重奏団体と共演するシリーズからカルテット・インテグラのベートーヴェン・ツィクルス(2025年〜6年間)につながったり、ウェールズ弦楽四重奏団による若手演奏家のためのウェールズ・アカデミーが生まれ、多くの室内楽奏者を育成し、また聴衆も育ててシリーズが継続している。

・2001年から「オープンハウス」をスタートしたが、この名前を冠した日本初の企画だった。その後、様々なホールが「オープンハウス」を開催するなど影響を与えた。

評価項目②:国際性(任意)

評価の観点
・(国際プレゼンスの向上)海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流)アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組)在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
・招聘団体であるレオンコロ弦楽四重奏団公演(助成対象事業外)への評価	・専門誌への演奏会評掲載3本以上 でおおむね高評価	・3本(読売新聞5/19、モーストリークラシック7月号、音楽の友8月号)	・演奏会評以外にも、公演の様子がNHKに収録されBS「クラシック倶楽部」ほかFMで放送され反響があり、「音楽の友」2025年2月号「ベストコンサートアーティスト」内の「期待の新人2024」で第1位に選ばれるなど、世界的に注目される若い弦楽四重奏団を日本に紹介できたインパクトは大きかった。これも2001年からクアルテット公演をシリーズで継続し、定期的に海外の団体を紹介してきた当団体の成果の現れと自負している。 ・今回の招聘は、ボルドー国際弦楽四重奏コンクールと提携し、優勝団体の副賞としての日本ツアー。東京公演の他に、横浜、大津、大阪でツアーを開催し、いずれも絶賛され、日本に世界の若手演奏家を紹介する機会となった。 ・レオンコロ弦楽四重奏団は、日本の所属事務所も決まり、2006年にも来日し、再び第一生命ホール公演を予定するなど、今後の活動にもつながっている。		

(2) 「国際性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

ボルドー国際弦楽四重奏コンクールと提携しており、2017年度から優勝団体を招聘し、日本ツアーを行っている。2024年度は2022年大会の優勝団体レオンコロ弦楽四重奏団を招聘。ボルドー国際弦楽四重奏コンクールだけでなく、ロンドン国際弦楽四重奏コンクールにも優勝。コンクール後、日本ツアーまでの間に、ユルゲン・ボント財団の室内楽賞を獲得、BBCラジオ3のニュー・ジェネレーション・アーティスト2022-2024に選出、MERITO弦楽四重奏賞を受賞するなど、ヨーロッパの若手団体への賞を総なめにした団体を日本に紹介できたインパクトは大きかった。インタビュが朝日新聞、読売新聞で取り上げられた他、第一生命ホール公演はNHKでに収録されて放送されている。2026年度はボルドー弦楽四重奏コンクール2025の優勝団体である「Opus13」(ノルウェー、スウェーデン)を招聘し、日本ツアーを実施することが決まっている。 ・2025年度に日本ツアーをするアマリリス弦楽四重奏団(ドイツ)は、2006年ミュンヘン国際音楽コンクール出場時にウェールズ弦楽四重奏団(日本)に影響を与えたことから、ウェールズ弦楽四重奏団が当団体で実施する若手演奏家向けのウェールズ・アカデミーにも講師として参加するなど日本の演奏家と交流する予定である。
--

評価項目③:地域文化拠点機能

評価の観点
・(文化拠点)地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携)地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供)次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 ・ホール利用サービス(貸館事業)の向上 ※ ・自由設定の観点(任意)

※ ホール利用サービス(貸館事業)を行っていない場合は不要

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評定	所見	対応・追加情報など
・サポーター(市民ボランティア)の数 ・連携する小学校数 ・子ども対象事業(子どもといっしょにクラシック)の参加率	・前年度実績+5人 ・中央区立小学校16校(新設校1校を除く全校) ・子ども対象事業(公演事業1-3)で目標数を上回る参加数を得る	・サポーター数は2023年度末55名→2024年度末53名と、2名減(新規登録者9名、退会者11名)。 ・中央区立小学校は新設校含む全17校と連携、アウトリーチを実施。 ・子ども対象事業では、公演事業1は目標達成、2と3は若干未達であった。具体的な数字は「2. 公演事業の実績記録と自己評価」参照。	・サポーター数は目標未達だったものの、個々の退会理由は「仕事を始めて忙しくなった」など前向きであり、年間を通して登録サポーターの86%が何らかの活動に参加するなど活発な活動ができている。 ・中央区立小学校では目標を上回る全17校と連携できたことは大きな実績となった。 ・子ども対象事業は「クリスマス・オーケストラ・コンサート」では1日3公演を実施するなど目標数を高く設定していたため未達もあったが、年間通してはかなりの数の乳幼児含む子どもが来場しており、年少人口が増えている地域のニーズに合致している。		

(2) 「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・中央区とは様々な場面で連携している。小学校アウトリーチでは、中央区教育委員会と連携しており、教育委員会を通じた区民の方の寄付をいただいて中央区立の全小学校でアウトリーチを行っている。2024年度は中央区晴海の新設校については開校したばかりで学校側も忙しくアウトリーチ実施は難しいと聞いていたが、教育委員会の口添えもあり、学校を訪問することができ、他全小学校と提携し毎年4年生に向けたアウトリーチを行っている実績があることから、アウトリーチができることになった。また、中央区の生涯学習課と連携している「中央区民カレッジ」講座は、これまで年間1回担当していたが、2024年からは年に2回担当することができ、講座を聴いてから第一生命ホール公演で鑑賞する機会が増えた。中央区晴海地区に新しくできた晴海地域交流センター「はるみらい」では、2024年から年に2回の頻度で、第一生命ホール公演に関連したロビーコンサートやワークショップを行うことになった。晴海地域では、また新設の介護施設にもアウトリーチを実施した。中央区から委託された「協働ステーション中央」からの声掛けで、近隣の晴海児童館と協働することになり、2024年12月に晴海児童館で赤ちゃん向けコンサートを行うなど地域との連携が増えている。

・2025年に新しく登録したサポーターに、2010年頃からご自身の子どもを連れて「ロビーでよちよちコンサート(現・0-3歳児のためのコンサート)」など子ども向けのコンサートに定期的に通い、最近では「トリトン晴れた海のオーケストラ」などの公演にきていたが、「子どもが大学生になって少し時間ができた」という理由でサポーターになった、という近隣住民がいた。

評価項目④:多様性とアクセシビリティ

評価の観点
・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。 ・(アクセシビリティ)障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
・子育て世代に向けた事業数と託児利用者数 ・アウトリーチ事業の実施数	・2事業4公演(公演事業2.3)実施、利用20人 ・中央区江東区内で30回以上	・託児利用者数は、2公演合計で19名であった。 ・中央区江東区でのアウトリーチ実施回数は、計39回となった。	・託児利用は目標にはわずかに届かなかったが、中央区は子育て支援が手厚く、割安で短期間預かってもらえるシステムもあるので、区民の方はうまく利用しているようだ。 ・アウトリーチ実施回数は、中学校など想定以上に需要があったため増やすことができ、幼稚園・保育園の後、小学校、中学校とアウトリーチを継続して提供できる道筋もつくることができた。		

(2) 「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・公演事業では、0-3歳児向けのロビーコンサートや、4歳児から入場可のコンサートなど、細かく年齢別に分けた公演シリーズを用意し、幅広い観客に訴求している。 ・アーティストの年齢はセミナーやアカデミーを受講する若手からベテランまで幅広く、日本人アーティスト、海外から招聘するアーティストもいる。スタッフは少人数でなかなか年齢層に幅を持たせることができないが、サポーターは10代の大学生から80代以上とかなり幅広い年代が網羅されており多様性が確保できている。また、近所に住む子育て中の外国籍のサポーターもいる。過去のインターンにも外国籍の大学院生がいた。 ・障がい者向けのアウトリーチとしては、中央区立発達支援センターに年2回訪れ、未就学児対象のアウトリーチを行っている(成人室や作業室に通う大人も参加)。中学校では、中央区立中で唯一特別支援学級のある銀座中でアウトリーチを行う。また三菱地所が都内の特別支援学校に生の音楽を届ける「Shall We コンサート」を毎年請け負い、協働でアウトリーチを年に1-2回行っている。

評価項目⑤: 自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

評価の観点

- (1) 令和6年度の自己評価
- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など

評価項目⑥:運営体制と持続可能性

評価の観点		現状	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「実現性」の評価項目より							
(ア)	(多様な財源の確保)予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。						
(イ)	(広報・営業力)広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。						
(ウ)	(他館連携)他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。						
(エ)	(設置者)円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。						
「持続可能性に関するチェックシート」より							
(オ)	(芸術監督)芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。						
(カ)	(長期的経営)長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。						
(キ)	(専門人材の確保)今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。						
(ク)	(職制の整理)芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。						
(ケ)	(世代間バランス)年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。						
(コ)	(ジェンダーバランス)女性管理職比率が30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。						
(サ)	(ワークライフ・バランス)仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。						
(シ)	(コンプライアンス順守)情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。						
(ス)	(ハラスメント防止対策)職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。						
(セ)	(適正な契約事務)アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。						

4. 総評

・ 団体の自己評価

・当団体のミッション、ビジョンを踏まえた自主事業を行い、公演事業、普及啓発事業、人材養成事業、全てにおいて、概ね当初の目標を達成することができた。

・公演事業では、人口急増地域のニーズに答えた年齢などきめ細かい対象別のシリーズを展開し、チケット購入枚数は目標を下回った公演もあったものの、ほとんどの公演では完売か目標超過し、それぞれターゲットとした観客に楽しんでもらうことができた。

・普及啓発事業では、新設校含め中央区全17校の小学校に継続して毎年アウトリーチができる道筋ができたこと、区立中学校でもアウトリーチができるようになったことは大きな成果と考えている。

・人材養成事業では、14年継続しているアウトリーチセミナー修了生たちがアウトリーチで活躍、ウェールズ・アカデミーは過去3年間30人の修了生から国内オーケストラに入団した演奏家が7名、他にもソリストや室内楽奏者として活躍する演奏家を輩出するなど、大きな成果を挙げている。ウェールズ・アカデミー修了後にアウトリーチセミナーを受講する演奏家もあり、人材育成事業を通じて、公演事業と普及啓発事業とも連動して、ビジョンの実現に貢献できた。

・人材養成事業のサポーター(ボランティア)については、コロナ禍の時に活動の内容に変化があったことから、よりやりがいを持って活動してもらえるように、研修内容含め運営を見直す予定である。

・以上のことから来年以降も、人口が急増し子どもが増えている地域のニーズを把握し、新規住民の方により当団体の活動を知ってもらって、ビジョンの実現に向けてミッションを遂行したい。

・ 所見

